

平成29年度 島原中央高等学校 職員自己評価表

氏 名

学校教育目標	高い道徳的感情と人権・同和について真摯に捉える精神を涵養し、生徒指導に重点を置き、明るい知性と強固な意志とをもって積極的に行動し、自主的学習により各々独自の資質を伸ばし、誠意をもって社会に貢献するたくましい人材の育成を目標とする。
教育方針	1. 温かい人間愛に溢れた学園の生活 2. 礼儀正しく感謝報恩に生きる生活 3. 勤労奉仕に徹した生活 4. きびしく節度のある行動により、本校生としての自覚と責任に徹した生活
重点努力目標	1. 基礎学力の向上とわかりやすい授業の展開を図る。 2. 個々の生徒を活かした指導を徹底し、活力ある学校づくりを目指す。 3. 将来の進路を見据え、1年次から系統だてした進路指導を計画し、特に2年次では休業期間の中でインターンシップを実施して目指す職種を経験し、進路の選択能力を養う。 4. 生徒会活動を活性化し、他校との交流や災害支援活動・地域貢献活動を展開する。 5. ボランティア活動に積極的に参加する態度を育成し、社会の一員として認められる人材育成を目指す。

【評価分野】 1 学校経営					
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	
				途中	総括
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神・中期的なビジョンを踏まえた目標となっている。	3.0	3.2
			目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する会議を設け、その後の教育活動に生かす。	3.0	3.3
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会へ明確に示す。	3.3	3.7
			経営方針を意識して教育活動を展開する。	3.1	3.4
③学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動の展開を図る。	2.9	3.2
			学年部会を月に1回以上開き、目標の達成状況や課題等について共通理解を図る。	2.8	3.1
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った学級づくりを行う。	学年目標に沿って生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	2.9	3.1
			個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的な理解を深める。	3.0	3.3

評価基準 4. 十分達成している 3. おおむね達成している 2. どちらかというと達成されていない 1. ほとんど達成されていない

【評価分野】 2 教育活動					
評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	
				途中	総括
①教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	生徒の能力・興味・関心・進路に応じたコースを設定し、特色ある教育課程を編成する。	3.2	3.5
②教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善、適切な学習評価	指導方法に創意工夫がなされた授業を行う。	シラバスを作成し、学習目標や学習方法を事前に生徒へ説明する。	3.3	3.3
			習熟度・添削等、個に応じた指導を行い、学力向上に取り組む。	3.3	3.6
			基礎・基本の内容を重点化した指導を行い、基礎学力の充実を図る。	3.2	3.5
			生徒による授業評価を年に2回実施し、授業の改善を図る。	3.2	3.6
		家庭学習の習慣をつける。	家庭学習時間を充実させ、60分を目標にした課題等を作成する。	2.4	2.8
③総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要領のねらいを踏まえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	学年ごとの主題を設定し、主題に沿って学習成果をまとめさせ、発表会等を実施する。	2.6	2.9
④特別活動	HR活動の充実	生徒の自主的な活動を行う。	HR計画を立て事前準備を行い、活発なHRを展開する。	2.6	2.8
⑤生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員できめ細かな生徒指導を行う。	生徒退学者数を年間5名以内を目標とする。	3.4	3.7
			出席率を高め、遅刻者ゼロを目標とする。	2.7	2.9
			あいさつや、礼儀作法・容儀等の指導を徹底し、規則正しい生活を身につけさせる。	2.8	3.1
	生徒会活動の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒会行事に生徒が主体的にできるような工夫や環境をつくる。	3.0	3.2
⑥進路指導	キャリア教育の推進と進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う。	進路選択に役立つ情報を学年に応じて系統的に提供する。	3.1	3.7
			進路実現に向け、講演会や三者面談を計画的に実施する。また、模擬試験を定期的に行う。	3.0	3.6
			生徒の進路実現のためのスキルアップと進路相談活動を活発化させる。	3.0	3.5
			キャリアサポートスタッフによる事業所開拓や個々の生徒への丁寧な進路指導をおこなう。	3.0	3.5
⑦教育相談	教育相談の充実	生徒の持つ悩みや困難の解決を援助する。	不登校・いじめなどの生徒の動向を細かく観察して問題等を的確に把握し、適切に対応する。	3.2	3.5
⑧読書教育	読書活動の充実	読書活動を通して教養を高め、落ち着いた生活態度を養う。	年間をとおして、「朝の10分間読書」を継続して行う。	3.0	3.3

評価基準 4. 十分達成している 3. おおむね達成している 2. どちらかという達成されていない 1. ほとんど達成されていない

【評価分野】 2 教育活動					
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	
				途中	総括
⑨健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	身の回りの安全と健康に配慮しながら心身ともにたくましく育て、欠席を減少する。	3.0	3.2
⑩人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	カウンセリング・マインドを持って生徒の相談に応じる。	人権に対する認識を高め、生徒との信頼関係や好ましい人間関係づくりを適切に行う。	3.0	3.4
⑪部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	生徒の部活動所属率が各学年80%以上を目標にし、部活動を活性化する。	3.0	3.2
⑫清掃指導	勤労観の育成	毎日の掃除の美的感覚を養う。	毎日の15分間の掃除をマニュアルに沿って行い、校内美化が保たれている。	2.8	3.0
⑬インターンシップ	休業期間の中でのインターンシップの実施	職業観・勤労観を育成し、将来の進路意識を高める。	2年次の夏季・冬季・春季の休みを利用したインターンシップを実施する。	3.4	3.6
⑭基礎基本の学習指導	基礎学力の向上	スタディサプリを活用した補習授業。	生徒の習熟度によりスタディサプリを活用しながら基礎学習の補習を行う。	2.6	2.6
【評価分野】 3 組織運営					
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動	各分掌の業務を均等化する。	前年度の各校務分掌の課題を確認し、その課題解決を図り検証する。	2.8	3.1
			分掌による仕事量をできる限り均等化する。	2.7	2.8
②校内研修	研修体制の確立と実践	校内研修を実施して職員の意識を高める。	各学期に1回以上、各分掌や各教科において、研修会等を実施する。	2.5	2.8
			公開授業や研究授業を各教科、年1回は必ず実施する。	2.5	3.2
			校外から講師を招き、視野を広げる講演会を開催する。	2.7	3.3
③現職教育	教職員の資質向上への取り組み	授業研究等を行い生徒に分かる授業を展開する。	教育センターや私学協会等の研修会に参加して教職員の資質向上を図る。	3.0	3.2
【評価分野】 4 魅力ある私立学校づくりを支援する事業の推進					
①生徒会活動の活性化	生徒会交流の推進	生徒会自主活動の活発化する	他校生徒会との交流を通して、社会性を身に付ける。	3.0	3.3
	ボランティア活動の推進	ボランティア意識の高揚を図る。	地域と連携したボランティア活動を生徒に奨励し、年間を通して活動した生徒には、学校外の学修として単位を認定する。	3.3	3.6
	ジオパーク推進と地元就職の推進	地域活性化と芸能による地域交流	ジオパーク学習や地域の祭りに参加することで島原の活性化に貢献し郷土愛を深め、地元就職者を増やす。地元の施設や学校との交流を行う。	3.3	3.7

評価基準 4. 十分達成している 3. おおむね達成している 2. どちらかという達成されていない 1. ほとんど達成されていない

【評価分野】 5 目標設定・自己申告制度					
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	
				途中	総括
①私学活性化のための目標設定	学校経営方針や教育目標の具現化	教職員の資質向上や教育活動の活性化と魅力ある学校づくりを推進する。	①学習指導 ②学級経営や進路・生徒指導 ③学校運営 ④部活動や地域貢献等の各目標設定項目の達成ができたか。	3.0	3.3
【評価分野】 6 教育環境					
①学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を徹底して美化意識を高める。	日々の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	3.0	3.2
	諸経費の節減を励行	施設・設備等の点検を徹底する。	光熱費、通信費、消耗品費等、前年度比のマイナス3%に抑える。	2.8	3.0
②施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	安全点検や補修を月に1回以上行い、環境整備を図る。	3.0	3.2
③情報インフラの整備	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進し、データの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	3.0	3.3
	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的に更新する。	見やすいホームページを作成するとともに、定期的な学校情報を発信する。	3.0	3.4
【評価分野】 7 開かれた学校づくり					
①保護者との連携	育友会活動の充実	生徒に関する情報の相互交換を密にする。	学校便りや学年通信を作成し、学校の教育方針や具体的活動についての情報を提供する。	3.2	3.4
		学校方針や具体的教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する。	育友会活動を活性化し、総会・評議員会や学校行事に参加を促し、学校運営に反映させる。	3.3	3.6
②地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種と連携を図る。	近隣地域の高校・中学校等との情報交換や連携を取る。	3.0	3.4
			中学生の体験入学参加者を前年比5%増しにし、学校の特色を理解させる。	3.2	3.3
	地域交流の充実	地域との連携を図る。	キャリアコースの充実を図るために、地元のグループホームでの介護実習を実施する。	3.4	3.6

総平均 **3.0** **3.3**

評価基準 4. 十分達成している 3. おおむね達成している 2. どちらかという達成されていない 1. ほとんど達成されていない